







平成 30 年度森林税活用事業の進捗状況

- 1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備**  (個票No.)
- (1) みんなで支える里山整備事業 ①
 - (2) 里山整備方針作成事業 ②
 - (3) 県単河畔林整備事業 ③
 - (4) 県民協働による里山整備・利用事業 ④
 - (5) 地域で進める里山集約化事業 ⑤
- 2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利用** 
- (1) 地消地産による木の香る暮らしづくり事業 ⑥
 - (2) 薪によるエネルギーの地消地産事業 ⑦
 - (3) 松くい虫被害木利活用事業 ⑧
- 3 森林づくりに関わる人材の育成** 
- (1) 里山整備利用地域リーダー育成事業 ⑨
 - (2) 森林セラピー推進支援事業※ ⑩
- 4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用** 
- (1) 森林の教育利用の推進 ⑪
 - (2) まちなかの緑地整備事業 ⑫
 - (3) 観光地における景観形成のための森林等の整備 ⑬
- 5 市町村に対する財政調整的視点での支援**  77
- (1) 森林づくり推進支援金 ⑭
- 6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証** 
- (1) みんなで支える森林づくり推進事業 ⑮
 - (2) 森林の里親促進事業 ⑯

※森林セラピー推進支援事業：人材育成等（3森林づくりに関わる人材の育成）と施設整備支援（4多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用）を合わせて記載

みんなで支える里山整備事業

平成30年度事業計画

○平成29年度繰越

1,110ha (321,508千円)

○防災・減災のための森林整備

1,290ha (389,397千円)

○県民協働による里山整備

150ha (53,357千円)

- 防災・減災のための森林整備は箇所を選定及び協定の締結を進めている。
- 県民協働による里山整備は計画認定後順じ着手している。

11月末までの取組状況

○平成29年度繰越

事業実施中であり、1,110ha完了見込み

○防災・減災のための森林整備

面積：精査中(1月末を目処に作業を実施)

○県民協働による里山整備

面積：精査中(3月末を目処に作業を実施)



地域会議による整備箇所の現地視察状況

課題と今後の方向性

- 防災・減災のための森林整備については「里山整備方針」の作成、県民協働による里山整備については「里山整備利用地域」の認定が、それぞれ初年度であることから時間を要している。
- 進捗管理を徹底し、事業の執行とともに次年度実施となる場合においても、協定締結を推進し計画的な実施にとりくむ。

里山整備方針作成事業

平成30年度事業計画

○里山整備方針の作成

120地域(2022年度まで)

- ◆ リモートセンシングによる優先整備箇所
の現地調査等により整備の必要性
を検討
- ◆ 30年度中に、115箇所で里山整備方
針が作成される見通し

【里山整備方針】

防災・減災に資する森林整備の方針と、その方針に基づき優先整備箇所を明示した図面

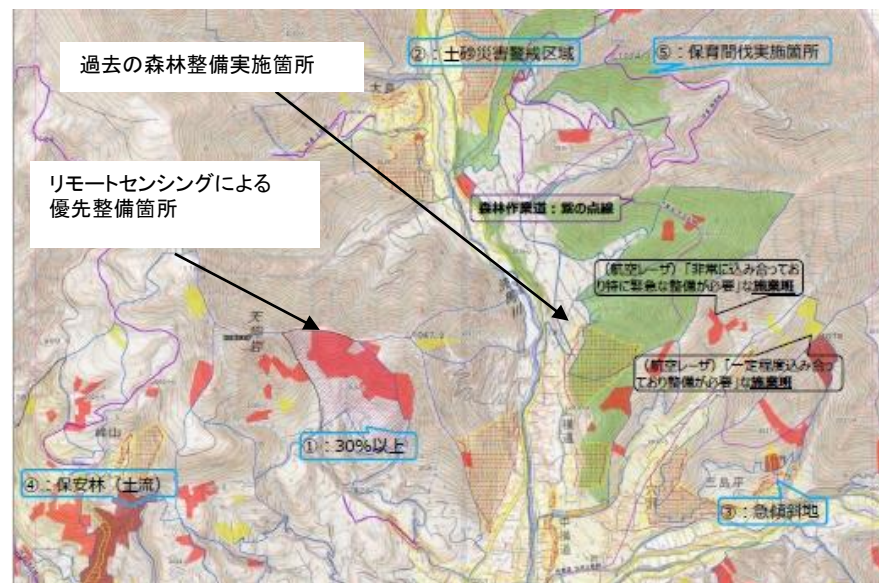
課題と今後の方向性

- 翌年度以降、現地調査等により整備の必要性等を精査し、里山整備方針を見直して優先整備箇所を決定

11月末までの取組状況

- 全ての市町村にリモートセンシングによる優先整備箇所のデータを提供
- 全ての市町村で里山整備方針の検討に着手。

里山整備方針(図面)の現地検討図面



平成30年度事業計画

○河畔林の整備 24箇所

一級河川での整備(県) 9箇所
準用河川での整備(市町村) 15箇所

11月末までの取組状況

- ・ 11月末時点で28箇所着手済み
(うち2箇所完了)
- ・ その他に9箇所で実施に向け調整中
→ **H30年度末整備見込:計 37箇所**

Before



After



課題と今後の方向性

○予防的な防災・減災対策であり、効果の把握に工夫が必要

県民協働による里山整備・利用事業

平成30年度事業計画

○里山整備利用地域の認定

50地域

- ◆ 地域振興局の林業改良普及員が地域への制度の紹介、協議会の組織化等を支援
- ◆ 3月までに、里山整備利用地域の認定までの取組、関連事業の活用方法等をまとめた「里山の活用方法の手引き」を作成予定

課題と今後の方向性

- 地域活動や協議会事務における中核的な担い手の存在
- 里山をフィールドとした幅広い分野の活動主体とのマッチング
- 今年度の先行事例を着実に進展させ、次年度以降の普及材料とする。

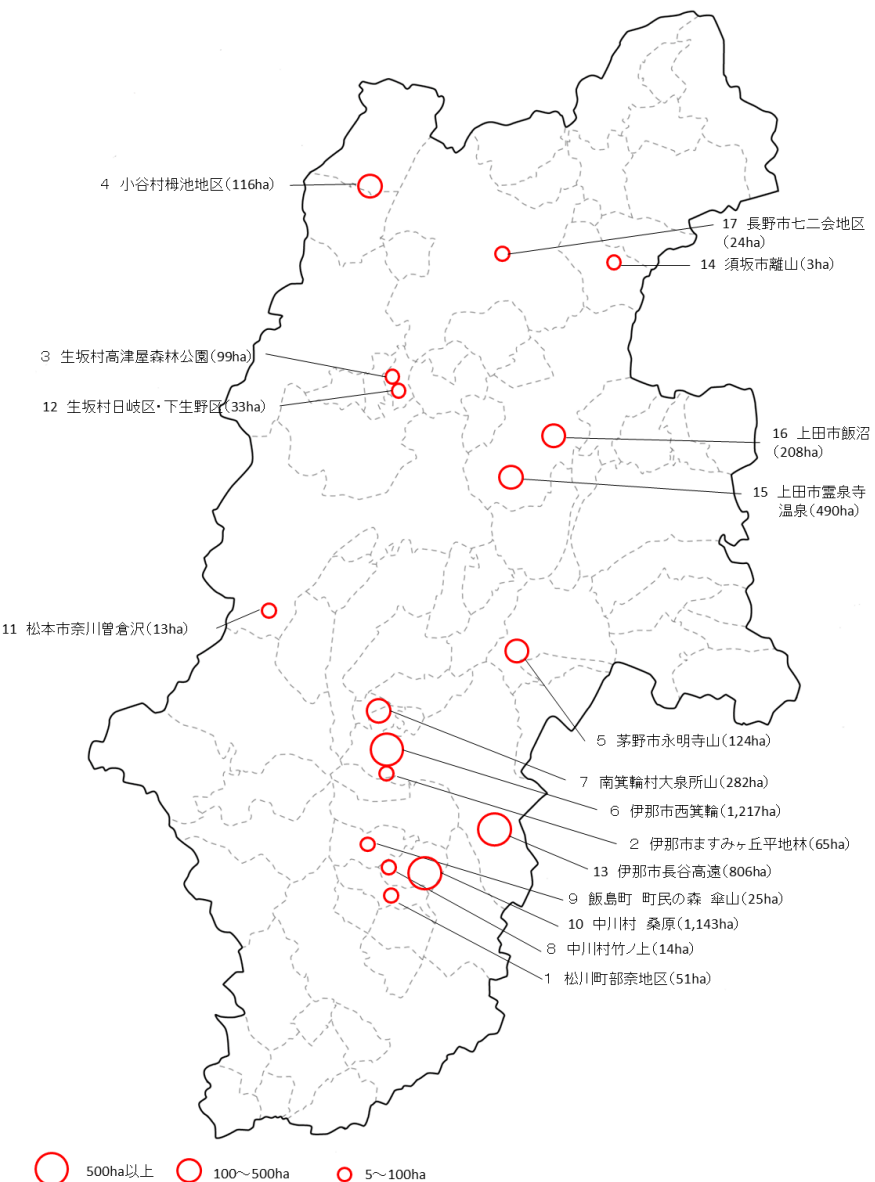
11月末までの取組状況

- ・11月末時点で17団地認定済み
→ 進捗率： 34%
- ・その他に89団地で認定に向け取組中
→ H30年度末認定見込： 計 48地域



《11月末時点認定状況》

里山整備利用地域認定一覧



認定地域における活動事例



間伐材の薪の利用 (伊那市西箕輪)



森林を利用するための遊歩道の整備 (飯島町町民の森)



里山の利活用に向けた「馬搬」研修会 (上田市霊泉寺温泉)



起業との連携医による森林ボランティア作業 (南箕輪村大泉所山)



森林を子育てに利用 (須坂市離山)

地域で進める里山集約化事業

平成30年度事業計画

○集約化等面積 900ha

11月末までの取組状況

- ・約500haの集約作業を実施中
- ・新たな里山整備利用地域の設定や里山整備方針の作成支援と並行し、集約化の実施に向けて支援中

課題と今後の方向性

- 「防災・減災」及び「里山の整備・利活用」の考え方に基づき、地域の里山整備の構想を新たに練っているため、事業地の具体化に時間を要している。
- 取組み事例の照会や、関係機関の連携などにより、地域に適合した方法で取組を進める。
- 継続して里山整備の条件整備を進め、里山整備の実施に寄与する。

事業の概要

○「子どもの居場所」木質空間整備事業

・空間の木造・木質化 25箇所/5年間 ・木のおもちゃ等の設置 150箇所/5年間

○木工体験活動支援事業

・木工体験活動への支援 →→→ 木工コンクール応募者 概ね5,500人程度(H34)

○県産材公共サイン等設置

概ね250枚程度/5年間

平成30年度事業計画

○「子どもの居場所」木造・木質化 5箇所

木のおもちゃ・調度品設置 30箇所

○木工コンクールの開催・木工体験活動支援

○県産材公共サインの作成

11月末までの取組状況

- ・「信州木の香る製品集」の作成・情報を発信
- ・木造・木質化7箇所、おもちゃ等の設置53箇所
採択済み（12/18まで三次募集実施）
- ・木工コンクール開催→応募者数4,608人
- ・各地域で木工体験活動を支援中（計26件）
- ・木製案内標識の先進事例調査等の調査委託
を発注し、契約済み（12/12）

課題と今後の方向性など

○県産材製品情報や導入支援施策について、幅広い層への周知が必要

○県産材利用のより高い波及効果を狙い、民間施設への事業展開を図る

○学校等が活動を新たに始める契機となるよう、実施事例を広く発信

○先進事例調査等の委託成果を踏まえ、県産材公共サインの整備を促進

「子どもの居場所」

→ 木工体験活動

→ 県産材公共サイン

～ これまでの事業成果 ～

《「子どもの居場所」木質空間整備事業》



飲食店(長野市・白玉蘭)キッズルームの内装木質化

スギ材を使った木の家
(長野市もんぜんぷら座こども広場じゃん・けん・ぽん)

《木工体験活動支援事業》



大鹿小学校(村産ハンノキで小物入れづくり)



県庁1階ロビーへ
受賞作品を展示



木工工作コンクール開催

事業の概要

《成果目標》

薪流通の仕組み構築モデル
概ね10箇所／5年間

《期待される効果》

- ・里山の未利用材の利用促進
- ・エネルギーの地消地産を通じた里山の持続的かつ自立的な維持管理

平成30年度事業計画

- コンパクトな薪流通の仕組みづくりのモデル的な取り組みに対する支援
2件程度

11月末までの取組状況

- 5件の応募に対し3件を採択済み
 - ・先進地視察
 - ・講習会の実施
 - ・アンケート調査、現地調査
 - ・展示会での普及啓発活動
 - ・シンポジウムの開催(12月)

課題と今後の方向性

- 地域内外に対するPRとそれによる波及効果の発揮⇒地域内外への情報発信実施
- モデルとしての類型化や汎用化が可能か、汎用可能な手法をどう共有していくか
⇒実施事例の整理とその情報発信(HP等)
- 補助事業終了後の事業の継続性(経済性)の確保⇒終了後の実施状況の確認(局)

平成30年度 活動状況(長野市鬼無里地区・大北地域)

シンポジウム

長野県「薪によるエネルギーの地産地消推進事業」
鬼無里de新活プロジェクト

鬼無里の里山を 次世代につなげるために



2018年12月24日(月・祝) 9:00~12:30 受付開始 8:30

会場：鬼無里活性化センター2階

長野市鬼無里日影2750-1 鬼無里支所隣り

参加費無料/定員50名

かつては利用することで維持されていた鬼無里の山林の荒廃をくい止め次世代につなげていくためにはどうしたらよいか？
里山保全活用の新しいしくみづくりについて、山林所有者、鬼無里住民、薪生産者、地域の施設・企業、森林組合、行政など幅広い主体とともに考えるシンポジウムを開催します。

基調講演 オーストリア山岳地域に学ぶ森林活用と地域活性化



講師：青木 健太郎さん

1974年静岡県生まれ。信州大学農学部森林科学科卒業。オーストリア連邦・国立ウィーン農科大学林務官養成課程修了。同大学博士号取得。信州大学地域共同研究センター客員教授(2014-2017年)。現在は、国連食糧農業機関(FAO)ローマ本部で自然資源技術専門官としてアジア地域の持続可能な森林管理・気候変動緩和適応策に関する包括的プロジェクトの立案・実施に従事。

ディスカッション 鬼無里の里山をみんなで利用するしくみづくり

「鬼無里の湯ホテル & コテージ」に薪ボイラーが導入されて1年が経ちました。鬼無里の豊かな森林資源を活用しながら、里山の景観整備・獣害抑制・観光振興・仕事づくりなどにつなげていくために、鬼無里ならではの新しい地域連携のしくみづくりについて、意見交換を行います。

お問合せ・参加申込み

裏面の申込書をご活用ください
HPからもお申込みいただけます

NPO法人まめってえ鬼無里

TEL: 050-3736-6218 FAX: 026-256-2101

E-mail jimukyoku@mamettee.org

ホームページ mamettee.org

長野市鬼無里地区でのシンポジウム



大北地域での薪原木生産地調査



大北地域での薪+ストーブ普及活動

松くい虫被害木利活用事業

平成30年度事業計画

○取り組みを行う市町村 10 市町村



松本市神田(千鹿頭池周辺)の対象地

11月末までの取組状況

- ・松本市、坂城町の事業実施を決定
13ha 約100m³の処理見込み
- ・伊那市・豊丘村から要望あり
- ・12月末時点で計4市町村(5箇所)で
実施決定見込

◆事業内容の例◆

- ・道路沿いの松くい虫被害木を伐採・搬出し、
バイオマス発電施設へ搬入。
- ・被害森林内に搬出路を設置して被害木を
伐採・搬出し、チップ工場へ搬入。

課題と今後の方向性

- 地域主体の被害木の利活用方法、継続のための仕組みを市町村が検討
→ 里山整備利用地域制度の活用も視野に、地域団体等と連携して検討
- 新たなバイオマス発電施設の稼働に伴い、被害材の更なる有効活用を図る。

平成30年度事業計画

○地域リーダー人材 30人

○維持管理人材 900人

- ・リーダー対象者への研修会
- ・地域で行う安全講習会への講師派遣

- ◆2月、3月に研修会開催を予定。認定作業が進む上伊那、南信州を会場で講習会を実施。
 - ・テーマ1【多様な者による森林整備・利活用】
 - ・テーマ2【竹林利用】
 - ・テーマ3【森林整備の基本】等
- ◆講師には、林業士、NPO、信大生等を調整中

11月末までの取組状況

- ・里山整備利用地域における活動を推進するための研修会を開催準備中
(11月末現在 新規認定15地域)



【イメージ】現場での研修

課題と今後の方向性

- 各地域で里山整備利用地域の認定に向けて検討中のため、事業の具体化までに時間を要している。
- 各地域の方向性に合せた研修会の検討

平成30年度事業計画

- 森林セラピー基地等協議会開催
- 森林セラピー基地整備 4箇所

- ◆12月にガイド講習会を開催し25名参加。当日はNHKや地元ケーブルTVが取材するなど注目が高い。
- ◆1月にもガイド講習会を県庁で開催予定。利用者側の視点からのスキルアップを実施する。

課題と今後の方向性

- 地域コーディネーター人材の具体化による人材育成メニュー検討(3月協議会で決定)
- 新規のセラピーガイドの育成へのPR等の実施
- 施設整備支援について、基地からは全体計画量を上回る要望

11月末までの取組状況

- ・森林セラピー基地等協議会開催(2回開催)による人材育成メニューの検討
- ・シニア大学講座を活用したガイド育成講座
- ・ガイドスキルアップ研修(6月、12月)
- ・森林セラピー基地整備 1箇所完了
6箇所進捗中



森林の教育利用の推進

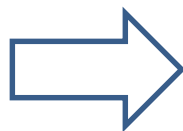
平成30年度事業計画

- 学校林の整備 16校
- やまほいく認定園のフィールド整備 8園
- 自然教育野外教育推進会議の設置
(プログラムの作成)

11月末までの取組状況

- 【学校林】
 - ・6校について事業実施
 - ・17校の相談に対応中
- 【やまほいく】
 - ・9園(10事業)が事業実施中
- 【自然教育野外教育の推進】
 - ・2回の推進会議を実施し、プログラムを検討中

やまほいくフィールド
整備実施箇所



下草刈り、処理木材
搬出実施後



課題と今後の方向性

- 学校林利活用に係る補助金の負担が困難との声が多く、地域の支援体制などの検討に時間を要している。
- 未実施校へ実施校の活動内容のPRを行うなどの取組を進め、県内各校の学校林利活用の機運醸成を進める。
- 多彩なフィールドがある中、事業要件についての丁寧な説明が必要。

まちなかの緑地整備事業

平成30年度事業計画

○緑地整備

4箇所

◆取組の成果

11月末時点で1ヶ所が概ね完成

◆今後の予定

3月までに残り3箇所の整備を予定

11月末までの取組状況

・11月末時点で4箇所実施箇所決定

→ H30年度末整備見込：計 4箇所



松栄の湧水公園(松本市)

課題と今後の方向性

○初年度の成果等を検証し、事業の見える化・継続性・他地域への波及に取り組む。

- ・事業実施内容をホームページ掲載等により広報する。
- ・事業者アンケート調査し、制度の運用改善を検討する。

平成30年度事業計画

- 街路樹整備 延べ **10km**
- 地域の景観に合致した間伐等
10箇所 17ha

11月末までの取組状況

- 県内観光地周辺の街路樹延べ**10km**
(6箇所)において整備を実施中
- 各地域振興局1箇所以上で間伐等を実施(全**11箇所**)予定

平成30年度実施箇所一覧

街路樹整備	地域の景観に合致した間伐等	
立科町 女神湖～白樺湖	南相木村 立岩湖	木祖村 鳥居峠
諏訪市 渋崎～石舟渡	長和町 笠取峠	筑北村 西条小仁熊ダム
松本市 松本駅前～あがたの森	茅野市 日向木場(蓼科)	大町市 鷹狩山
松本市 キッセイ文化ホール前	茅野市 ビーナライン	須坂市 臥竜公園
安曇野市 烏川	駒ヶ根市 駒ヶ根高原	山ノ内町 志賀高原
長野市 県庁前～長野大通り	阿智村 屋神温泉	



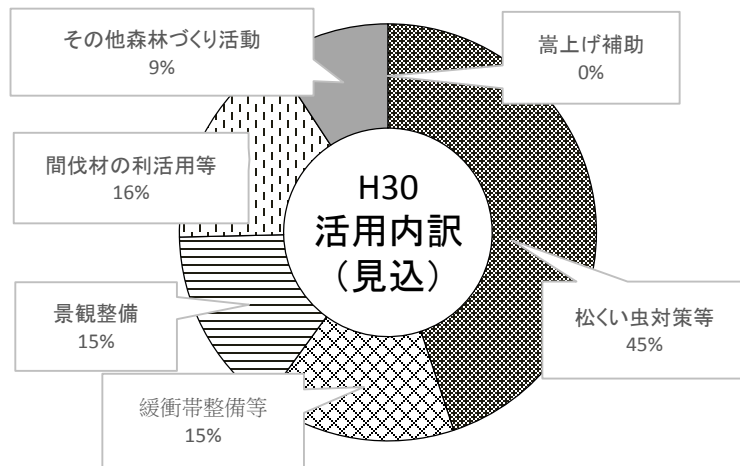
課題と今後の方向性

- 予算に対して多くの要望が寄せられている状況。優先順位の考え方をあらかじめ定めて計画を作成する方向で検討。

平成30年度事業計画

○市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組

実施市町村数 **77市町村**



月末までの取組状況

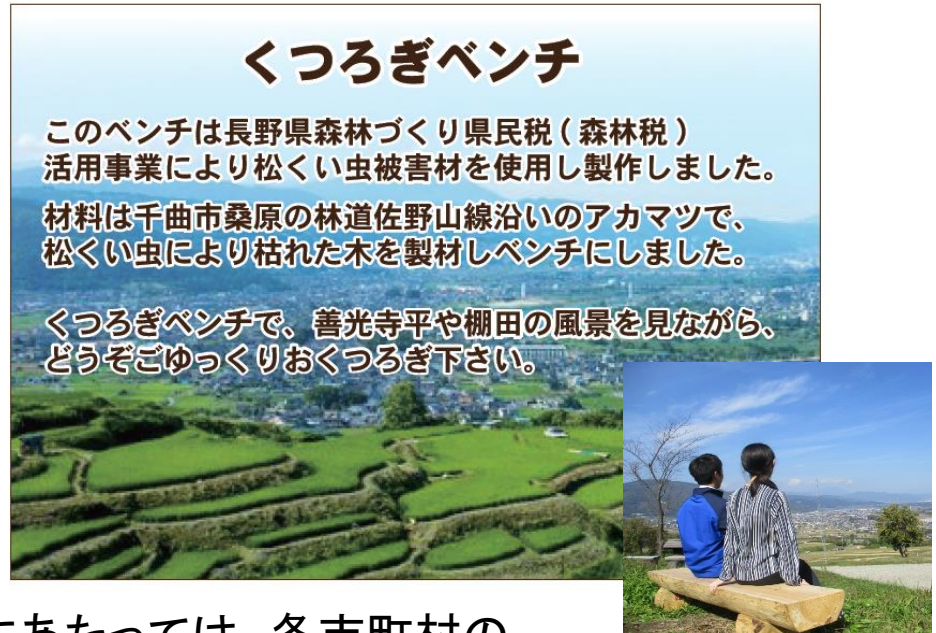
- ・全ての市町村で課題解決のための独自の取組を実施中
- ・市町村はホームページや広報掲載等の方法で事業内容を公表中

くつろぎベンチ

このベンチは長野県森林づくり県民税（森林税）活用事業により松くい虫被害材を使用し製作しました。

材料は千曲市桑原の林道佐野山線沿いのアカマツで、松くい虫により枯れた木を製材しベンチにしました。

くつろぎベンチで、善光寺平や棚田の風景を見ながら、どうぞゆっくりおくつろぎ下さい。



課題と対策など

○実施内容や検証・評価の結果の公表にあたっては、各市町村の住民に幅広く認知されるような方法を検討。

市町村による公表の一例（山形村HPより）

2018年9月25日 更新

 [印刷用ページを開く](#)

平成30年度森林づくり推進支援金事業の実施について

長野県から交付される、森林づくり支援金を活用し、森林整備等の事業を行います。

山形村の取り組み

山形村では、本年度、次の2つの取り組みを行います。

カラマツ枯損木処理事業

清水高原観光道路沿いに、キクイムシが原因と思われるカラマツ枯れが発生しています。これらのカラマツを伐倒・搬出し、被害の拡大を防ぎます。

林道改修事業

林道大池線は、雨が降ると洗掘等により通行困難となることがあるため、水切りの設置等により、通行しやすいよう改修します。

森林づくり推進支援金とは

長野県が市町村に対して交付する支援金で、市町村がそれぞれの地域課題に添って実施する森林づくり関連施策の経費に充てられます。

平成30年度事業計画

11月末までの取組状況

○森林税の使途の認知度 **30%**



【木曽地域広報誌「木曽人」2018vol16】

課題と対策など

○第3期の取組の進捗に合わせ、個別事業の具体的な成果をPRすることで、森林税を身近に感じられるような広報に努める。

○SNS等を活用して、若者や女性の認知度を高めるための広報に努める。

実施済み

- ・森林税リーフレットのコンビニ等への配布（5月以降随時）
- ・各種イベントでPR（クラフトフェアin北竜湖、協同組合フェスティバルなど）
- ・新聞版広報ながのけんでPR（8/25）
- ・ラジオスポットでPR（9/3～9/7）
- ・各地域の広報誌やイベント等でPR（左記のとおり）
- ・県SNS（フェイスブック、ツイッター、ブログ等）で取組を随時発信

今後

- ・森林税PR動画を作成するため、県下各地で第3期森林税の取組を撮影中
- ・ラジオ（AM、FM）放送によるPRを12～1月に実施予定
- ・モニターアンケートは1月に実施予定
- ・若者や女性に意見を聴く機会を2月に開催予定

平成30年度事業計画

11月末までの取組状況

○企業等との契約件数 **5件**

- ◆11月23・24日に長野市で行われた「秋の大収穫祭」で本年度契約締結したテレビ信州×中野市高社山四区共有林がブース出展。両日で4万7000人の来場となり盛況。併せて森林税のPRも実施。
- ◆関東圏の企業向けに銀座NAGANOでセミナーを開催予定（H31.2）

- ・新規契約**2件**
- ・新規契約に向けた現地調査を6企業等と7回実施
- ・新規開拓のための中京圏企業（2企業）、関東圏企業・自治体（2企業、7自治体）への訪問を実施
- ・契約締結前のプレ活動を**3企業**で実施

課題と今後の方向性



- 累積契約件数が増えるに従って、新規契約のマッチングが困難になっている。
- ⇒ 里山整備利用地域制度の活用等を含めて検討